



会派みどり
渡邊 龍之

学校運営について

質問 PTAが学校の備品などを購入したことがあるのか。

また、教育予算で対応すべき消耗品費や備品費、修繕費などの予算要求は、教育委員会として各学校の要望を十分に把握して行っているのか伺う。

答弁 PTAといった任意の団体のことについては、すべてを承知しているものではありませんが、PTAからの備品などのご寄付は、毎年度数件あると把握しています。

教育委員会としては、毎年各学校の要望を調査して把握しています。消耗品や備品などについては、各学校への配当予算の範囲内で計画的に購入されていますが、すべての要望に対応することは困難な状況となっています。一部のPTAでは、バザーなどの益金を、子どもたちの環境整備や学校独自の教育活動に充てるなどの活動を行っています。

ている団体もあるようです。

ふるさと納税について

質問 近年、大規模な自然災害が発生し、被災都市にふるさと納税が行われています。本市は、歳入予算に7億円を計上していますが、今後の見通しについて伺う。

答弁 ふるさと納税制度を活用して被災地へ寄付をされている方が増えていることは承知していますが、現時点での本市への影響については図りかねているところです。

今年度予算では7億円を見込み計上したところですが、11月末日現在での寄付額は4億円で、仮に12月の寄付額が平成30年と同額の4億4千万円となれば前年より1億円の増となります。

しかし、全国的に寄付額が低調とも聞いており、年末に向けて返礼品がより一層寄付者に伝わるものとなるよう鋭意努力を重ねているところです。



公明党
三上 裕久

内水浸水対策・外水浸水対策について

質問 ゲリラ豪雨などで一挙に雨水が側溝、下水道、排水路などに流入した際の雨水処理能力と処理能力を超えることを想定した対策について伺う。また、市が管理する河川においての河川しゅんせつ工事は、川の正常な流れを保つために必要なことと考えるが、どの程度のサイクルで実施されているのかを伺う。

答弁 現在の雨水処理能力は、1時間当たり35・5ミリの処理能力がありますが、これを超えた際には、道路冠水や建物への浸水被害が発生しています。被害の発生を防ぐために雨水バイパス管の設置や雨水本管からの逆流を防止するフラップゲートの整備を行っているほか、市の防災作業所に排水ポンプ、発電機、運搬車両などの常備化を進めています。

また、河川しゅんせつの実施に

については、特にサイクルを定めていませんが、各河川の土砂の堆積状況や地域からの要望を考慮して、年間約500メートルの工事を行っています。

地域おこし企業人交流プログラムについて

質問 地域おこし企業人交流プログラムは、三大都市圏に所在する民間企業などの社員を一定期間、国の財政支援（年間1人当たり560万円を上限として特別交付税措置される）の下に受け入れ、そのノウハウを市の魅力や価値の向上につながる業務に従事してもらうというプログラムであるが、その制度の活用について見解を伺う。

答弁 地域おこし企業人交流プログラムは、導入にあたっては、派遣元企業と派遣先自治体（滝川市）とでの人材のマッチングや、大企業から受け入れた場合の人員費が財政支援の枠を超えた際の一般財源負担などを生じることについての課題があります。次期総合戦略の策定過程において、その効果が期待できる事業の有無について検討していきます。